

教育研究推進WG

令和7年度活動概要

1. 教育研究推進WGの概要

教育研究推進ワーキンググループ（以下、教育研究推進WG）は、九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学分野の教員と九州大学病院看護部の教育担当や大学院を修了した看護職員で構成されたWGとして平成23年度から活動を開始した。教育研究推進WGは看護研究能力向上を目的として、各研究に対するテーマ・方法などに関し指導を活動の主体とした。平成24年度からは「九州大学病院看護研究コース」を開設し、系統的に研究スキルを習得できる研修の実施や、研究結果を成果発表会や学会などで発表できるよう支援体制を構築した。平成26年度からは病院における継続プロジェクトの教育研究推進WGに引き継がれ、看護研究の個別相談・指導を行いつつ、看護研究コースの「基礎編」「実践編」を隔年ごとに開催してきた。令和5年度からは教育WGと協働し、院内看護研究発表会を主催すると共に保健学科と協力して九州大学看護共創・実装研究拠点組織の構築を目指し、2テーマの実装研究に4部署が取り組みを開始した。令和7年度は新たなテーマが加わり、11テーマ17部署が実装研究を開始している。また、研究の基礎知識習得のため、保健学科主催の看護研究セミナーも開催されている。

目的：看護研究に関する学習を通し、看護職員の研究的視点の獲得、自己啓発と探求心の向上、および自律の促進を図る

活動目標：1) 各看護単位において1演題以上の看護研究発表に取り組めるよう支援する
2) 医学部保健学科看護学専攻分野と連携した看護共創・実装研究を支援する

【教育研究推進WG構成員】

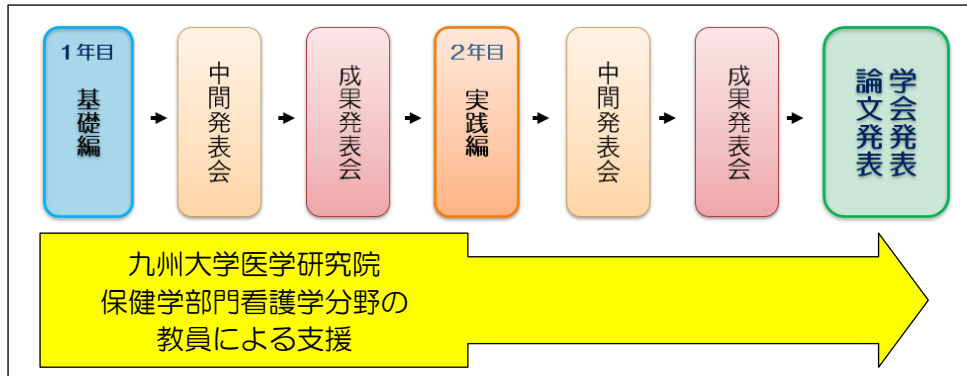
職位	所属
副看護部長（1名）	看護部
助教（1名）	医学研究院保健学部門看護学分野
看護師長（5名）	南棟8階1病棟、北棟9階2病棟、集中治療部、診療報酬担当、教育担当
副看護師長（2名）	情報担当、教育担当
看護職員（3名）	北棟11階1病棟、救命ICU・ハイケア、教育担当

2. 教育研究推進WGの開催

開催回数	日時	主な議題
第1回	5月23日	○今年度のWG活動について
第2回	書面回議	○臨床看護研究発表会の担当、タイムスケジュールについて
第3回	7月25日	○臨床看護研究発表会について ○看護キャリアセンターセミナーについて
第4・5回	9月26日 10月24日	○臨床看護研究発表会について ○研究スキルの評価について
第6・7回	令和8年1月24日 2月28日	○看護研究セミナー実施報告 ○看護キャリアセンター報告書作成について

※第2～7回には、キャリアステーション活動報告と九州大学看護共創・実装研究拠点組織への協力状況の報告を実施。

3. 九州大学病院看護研究コースの流れ（令和5年度より休講）



九州大学病院看護研究コースの概要

九州大学病院看護研究コースの目的

- 1) 看護研究の一連の流れを学習・体験し、研究方法の基礎を身につける
- 2) 研究的態度・科学的思考ができる能力を高める
- 3) 看護の現象に関し、研究的視点を持つことができる
- 4) 研究成果を学会や論文等で発表することができる

基礎編

【目的】

1. 看護の現象に関し、研究的視点を持つことができる
2. 自分の経験から生じた、明確にしたい看護現象に関して、研究的に探究する方法を検討することができる。

【目標】

1. 研究に必要な基本的な知識を学ぶ
2. 研究の倫理的配慮を理解できる
3. 研究に必要な文献をコンピューターで検索できる
4. 研究に必要な文献のクリティークができる
5. テーマを選定することができる
6. プレゼンテーション技法を理解できる

実践編

【目的】

1. 看護研究の一連の流れを学習・体験し、研究方法の基礎を身につける
2. 看護の現象に対し研究的視点を持ち、関心領域に関する研究を深め、研究成果を発表できる

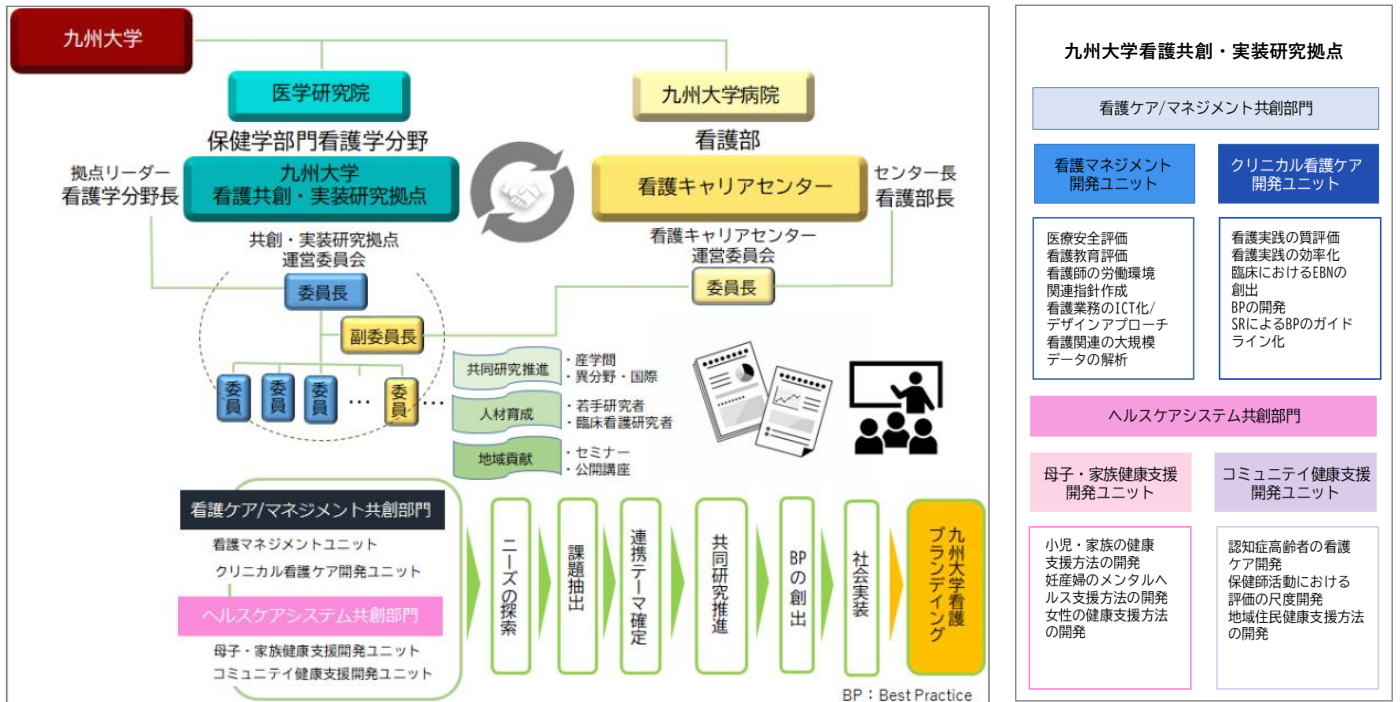
【目標】

1. 研究の目的に沿った研究手法が選択できる
2. データ収集の方法を選定できる
3. データ分析方法の選定ができる
4. 研究計画書を作成できる
5. 研究倫理を配慮し、倫理審査の手続きができる
6. データ分析ができる
7. 抄録作成ができる
8. 学会発表ができる

令和7年度実施状況

1. 九州大学看護共創・実装研究拠点組織への協力

九州大学看護共創・実装研究拠点は、保健学部門看護学分野と看護部が連携し、外部機関や異分野との融合研究を通じて、イノベーティブな看護の開発と社会実装を戦略的に推進することを目的としている。組織は2部門・4ユニットで構成され、社会実装に向けたベストプラクティスの創出や、EBNの構築を目指している。本拠点は、令和6年3月21日のキックオフシンポジウムを経て本格的に始動し、令和7年度までに11の研究テーマに取り組み（表1）、連携の成果として多数の学会発表を行っている。



九州大学看護共創・実装研究拠点 HP より一部改変, <https://nursehs-kyushu-u.jp/kenkyukyoten/index.html>

表1. 看護共創・実装研究拠点 連携研究テーマ

No.	研究テーマ
1	個人防護具 (PPE) 着用による熱ストレス低減にむけた指針作成
2	頭頸部がんを対象とした看護師主導の急性期口腔ケア介入の効果の検討
3	看護師が抱える身体動作に関連したヘルスニーズに対する新たな支援策の検討
4	がん・肝移植患者の座位行動低減に向けたウェアラブルデバイスによる介入効果の検証
5	口腔がんを対象とした看護師主導の急性期口腔ケア介入の効果の検討
6	九州大学病院における TOLAC (Trial Of Labor After Cesarean section) に関する調査
7	小児造血細胞移植術後患者フォローアップ外来 (LTFU) における実装研究
8	臨床現場と大学の連携による新人看護師の支援プログラムの開発
9	在宅中心静脈栄養療法施行患者の退院後の実態調査 (退院支援)
10	女性生殖器がん術後患者を対象とした身体活動量向上のための複合的介入の検討とその効果の検証
11	LVAD 装着患者の体験を基盤とした心理教育プログラムの作成

2. 看護研究セミナー（基礎編II）

令和6年度より「看護研究セミナー基礎編」を企画・開催し、今年度は基礎編IIとして、研究テーマを導き出すための文献活用方法を理解することを目的に、論文クリティークを含む講義および演習を実施した。

1) セミナーの概要

- (1) 期 間：令和7年4月25日（金）～令和7年7月24日（木）
- (2) 対象者：九州大学病院看護職員
- (3) 講 師：九州大学保健学部門 教員
- (4) 実施形態：対面



2) 目標

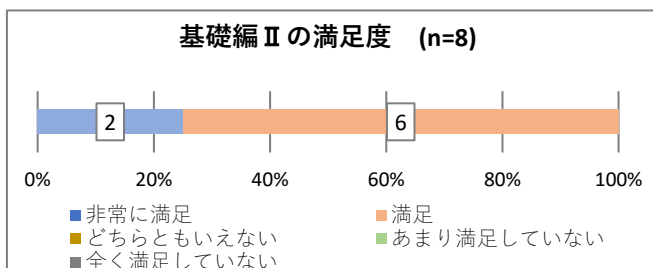
- (1) 複数の論文から特定のテーマに関して「わかっていること、わかっていないこと」を整理することができる。

3) スケジュール・内容（添付のポスター参照）

4) 参加者

看護研究セミナーの基礎編Iを受講した希望者 9名

5) 受講者の満足度・感想



- ・論文ごとに強み・弱みがあることを理解できた。
- ・1つの文献を何度も読み込み、講義やグループワークで再検討することで新たな気づきを得られた。
- ・関心のある分野の文献を積極的に読み、看護研究に発展させたい。
- ・学んだレビュー表を実際に活用し、研究に結び付けたい。
- ・より実践的な内容として、統計ソフトの使い方や、得られたデータの Excel での管理方法などを学びたい。

6) 運営のまとめ

本セミナーを通して、参加者は論文を読み解く視点を獲得し、文献を基に研究テーマを検討するプロセスを体験することができた。一方で、統計解析やデータ管理に関するより実践的な学習ニーズも示されており、今後はデータ整理や統計解析を実践形式の演習として取り入れることを検討し、研修内容の充実を図る必要がある。

九州大学看護共創・実装研究拠点事業

オンデマンドでも学べる／**看護研究セミナー** 基礎編II 全4回

2025年 **4.25 (金)** - 2025年 **7.24 (木)**
17:00~18:00

開催日	講義テーマ	内容	オンデマンド	会場
① 2024.10.23 (水)	看護研究とは	研究や看護実践における文献活用の意義	○	外来棟5階
② 2024.11.27 (水)	文献活用	論文種類・研究デザイン、統計解析を読む	○	南棟5階
③ 2024.12.26 (木)	統計解析1	記述統計：平均値・中央値・標準偏差	○	外来棟5階
④ 2025.1.23 (木)	統計解析2	クロス集計、2群の比較、単変量解析	○	打合せ室①
⑤ 2025.2.27 (木)	統計解析3	正の相関、負の相関、相関係数、散布図	○	外来棟5階
⑥ 2025.3.12 (木)	統計解析4	ロジスティック回帰分析、オッズ比	○	外来棟5階
⑦ 2025.4.25 (金)	文献検討1	文献クリティーク①	対面のみ	未定
⑧ 2025.5.22 (木)	文献検討2	文献クリティーク②	対面のみ	未定
⑨ 2025.6.26 (木)	研究シーズの検討1	文献整理・レビュー表の活用	対面のみ	未定
⑩ 2025.7.24 (木)	研究シーズの検討2	文献整理・レビュー表の活用	対面のみ	未定

申込み方法（基礎編II）
部署の看護師長へ確認後 Webページよりお申込みください
※4月18日までに申し込みにください

対象
基礎編IIをすべて受講可能な方で、基礎編Iを受講済みの方
※研修開始までに基礎編Iを受講可能な方（オンデマンド）
※基礎編I（6,000円）をお申込みでない方はこちらからお申込みください

受講料
基礎編II：4,000円
※お申込み後、お振込用紙が届きますので、お振込をお願いいたします。

講師 保健学部門 教員
教授
講師
助教

受講方法 対面のみ

【お問い合わせ】
メール：
電 話：

3. 令和7年度臨床看護研究発表会

日時：令和7年11月15日（土）9：00～12：00

会場：臨床大講堂

主催：看護部

運営：教育研究推進WG・教育WG

スケジュール：

9：00	開会	
	開会挨拶	看護部長
9：05	【第1群】	テーマ：看護実践
	1. 二次生体腎移植後の拒絶により腎摘出に至った患者との関わり	南棟9階2病棟
	2. A病棟における乳がん薬物療法を受ける患者への退院指導の実態調査	南棟6階2病棟
	3. 悪性心臓腫瘍に対する化学療法実施時の現状把握と今後の課題	救命救急センター (CCU)
9：35	【第2群】	テーマ：医療安全・感染管理
	4. 小児病棟における転落予防マニュアルの導入が看護師の転落予防行動に与える効果	北棟6階2病棟
	5. 歯科部門における歯科器材の洗浄の現状と課題	北棟外来4・5階
	6. 植込型補助人工心臓患者におけるドライライン皮膚貫通部感染症予防に関する研究	診療報酬担当
10：05	休憩	
10：20	【第3群】	テーマ：退院支援・多職種連携
	7. 多職種連携し皮膚ケアを行った重症汎発型単純型表皮水疱症の乳児の一例 —清潔ケアとデバイス管理について—	南棟5階2病棟
	8. NICUに入院している医療的ケア児の在宅移行支援に関する病院看護師と訪問看護師の 認識 —家族の手技習得と看護師間の連携に着目して—	南棟5階2病棟
	9. 妊娠糖尿病を既往に持つ腎移植患者への多職種支援	南棟9階1病棟
	10. 植込型補助人工心臓装着患者の在宅カテコラミン導入の取り組み	北棟3階
11：00	休憩	
11：05	【第4群】	テーマ：看護倫理、看護共創・実装
	11. 日勤業務に伴う労働負荷・疲労の傾向と特性	北棟9階1病棟
	12. 呼吸器離脱困難なリンパ管腫症患者への意思決定支援	北棟6階1病棟
	13. ICU患者の人間性を可視化する情報要素の抽出とPersonhood Core 10の構築 —ICUで終末期を迎えた患者のその人らしさを模索した経験を通して—	集中治療部
	14. 倫理カンファレンスを行うことによる倫理的感受性と退院支援能力への効果	医療連携センター
	15. 倫理的組織風土に及ぼす個人背景要因	北棟11階1病棟
11：55	講評	副看護部長
12：00	閉会	

臨床看護研究発表会は、看護研究の成果を発表し、看護の質向上を図ることを目的に行われている。高度先進医療、急性期医療を担う大学病院の看護職員として、研究的視点を持ち、複雑多様化する患者のニーズを捉えた看護実践に繋げることを目的に、本発表会への参加がラダーⅢ・Ⅳの取得条件となっている。今年度は、「看護実践」「医療安全・感染管理」「退院支援・多職種連携」「看護倫理、看護共創・実装」の4つのテーマに分け、15演題の発表があり、当日参加者は179名であった。中には、令和6年度より始動した看護共創・実装研究の発表もあり、保健学科と協働して行っている研究の成果を発表する場となった。さらに、後日オンデマンド配信を行い、視聴者数は249名であった。オンデマンド配信は、新人看護職員から看護師長まで幅広い層の看護職員が視聴しており、看護研究への関心の高さが窺えた。今後の看護研究の発展や、看護実践の質向上に繋がることが期待される。

4. 看護研究研修

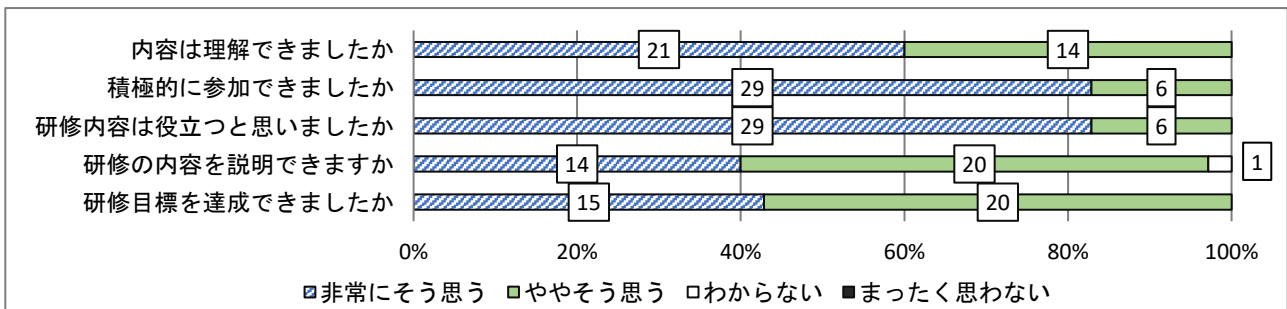
1) 研修概要

- (1) 日時：令和7年12月17日（水） 17：00～18：30
- (2) 対象：クリニカルラダーⅡ以上の看護職員
事例研究に取り組むことに関心のある看護職員 42名
- (3) 講師：教育担当副看護部長
- (4) 内容：講義「日ごろのケアから事例研究へ」

グループワーク「事例の意識化・言語化」「キャッチコピーの作成」
「大見出し、小見出し作り」

2) 研修評価

(1) アンケート集計結果 n=35 (回答率：87.5%)



(2) 今後の課題・感想 (一部抜粋)

- ・ 質的研究における厳密性を高めるために、方法論的枠組みについての理解をさらに深め、自分の研究に論理的な基盤を明確に捉えることができるようになることが今後の課題である。
- ・ 大見出し、小見出し、実践、キャッチコピーを考えていく中で思考が整理される感覚をつかめたことがとても良かった。

(3) WG 評価

講義では事例研究における厳密性を高めるための方法論 (CMC) の考え方や流れについて理解を深めることができた。グループワークでは CMC に沿って、意識化・言語化やキャッチコピー、大見出し・小見出しの作成を行うことで、事例を多角的に検討し、研究の質を高める方法を学ぶことができた。今後の研究活動への活用が期待される。

5. キャリアステーション

※【4) キャリア支援 キャリアステーション】参照

広報活動


看護キャリアセンターホームページで教育研究推進 WG の活動報告を行った。



今後の展望

教育研究推進WGは、個別の看護研究の相談・指導を主体とし、院内看護研究発表会の開催、実装研究の支援などの活動を行っている。実装研究では、現在11テーマ17部署が研究に取り組んでいる。その他にも多数の部署が研究を実施しており、看護職の研究マインドは育ってきていると考えている。また、実施した研究成果については院内研究発表会や学会での発表に繋がっており、研究によって得られた貴重な知識・看護を発信することができている。今年度は実践編の看護研究セミナーにおいて、クリティークや結果の分析などの演習もあり、満足度も高く看護研究能力習得に効果的であった。また、教育研究推進WG主催で事例研究の研修を実施することができた。今後は看護の事例研究発表を通して、九州大学病院で実施している患者中心の看護を発信していきたいと考える。

今後の課題として、WG活動の評価のためにも看護研究スキルの確認表を作成する予定である。



九州大学大学院 医学研究院 保健学部門 看護学分野

令和7年度 九州大学看護共創・実装研究拠点シンポジウム

看護実装を目指した戦略と工夫

日時・場所
 日時：2026年3月12日(木) 13:00~16:00
 場所：九州大学病院キャンパス アイン薬局九大南店(2階 大会議室)
 ハイブリッド開催
 福岡市東区馬出3-1-1 <https://store.ainj.co.jp/detail/1101623/>

プログラム

13:00 開会の挨拶
 諸隈 誠一 (医学研究院 保健学部門 部門長・看護学分野 教授)

13:05 特別講演
 タイトル:「実装研究の実際－エビデンスを現場に根づかせるための戦略と実践－」
 講師:持田 恵理 (大分県立看護科学大学 教授)
 <休憩>

14:25 共催者挨拶
 江口 恭世 (九州大学病院副院長・看護部長・看護キャリアセンター長)

14:30 九州大学看護共創・実装研究拠点の概要とこれまでの活動
 樋口 暢子 (医学研究院 保健学部門 看護学分野 教授)

14:45 シンポジウム「拠点活動による共創研究の現在地と可能性」
 クリニカル看護ケア開発ユニット
 後藤 健一 (医学研究院 保健学部門 看護学分野 教授)
 田中 さとみ (医学研究院 保健学部門 看護学分野 助教)
 母子・家族健康支援開発ユニット
 長友 恵莉 (医学研究院 保健学部門 看護学分野 助教)

15:50 閉会の挨拶
 藤田 君支 (医学研究院 保健学部門 看護学分野長 教授)

事前申し込み
 参加希望の方は、QRコード(URL)より2月末までにご登録ください。
 オンラインでの参加希望の方は、3月上旬から開催の数日前までにZOOMのID等をご連絡申し上げます。
 参加申込URL: <https://forms.gle/uX1EKtjz7qLFpFCQ7>

事前申し込み用
QRコード

問い合わせ：
 運営事務局 寺岡研究室
 Mail: teraoka_sawa_990@ml.kyushu-u.ac.jp
 主催：九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学分野
 共催：九州大学病院看護キャリアセンター・九州大学病院看護部
 共催：九州大学病院 国際医療部 アジア遠隔医療開発センター